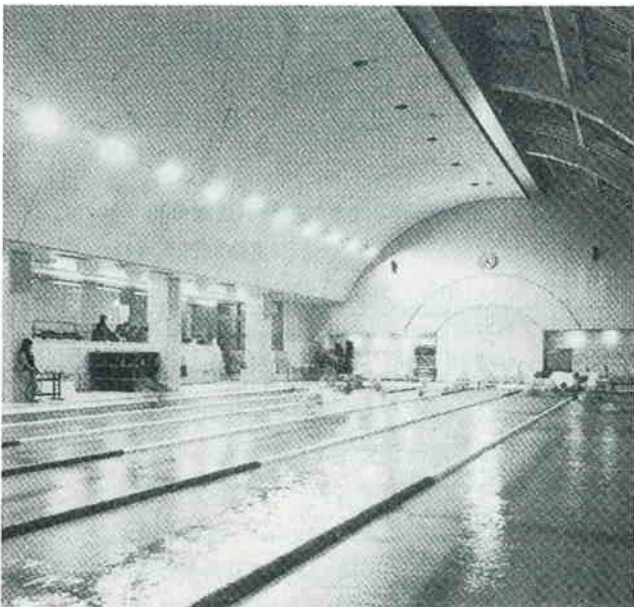
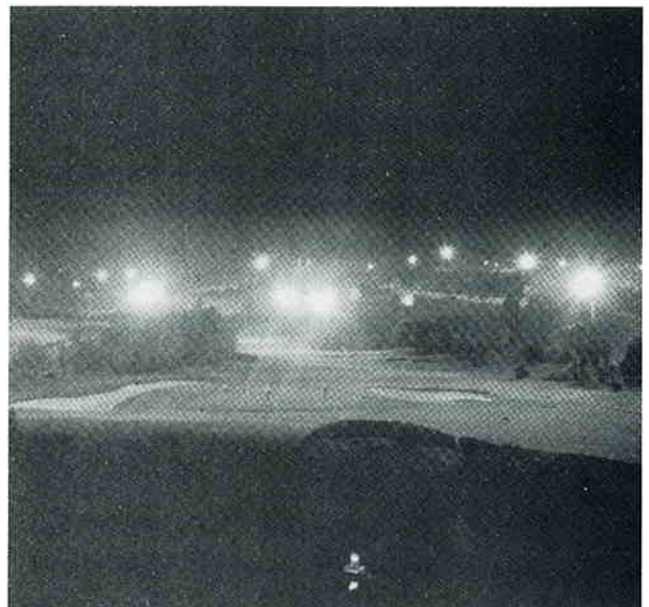




照明普及会だより

第2号

発行・社団法人照明学会・照明普及会 〒100 東京都千代田区有楽町1-7-1
有楽町電気ビル 北館5F
昭和63年11月28日



上段 名古屋市総合体育館
下段 北大学力増進会北本部ビル

上段 東通ロイヤルカントリークラブ
下段 エースプラザ稲毛テニスクラブ

店舗照明に関する意識調査

店舗照明の意識調査専門部会

最近の店舗照明も新光源の出現などで、その環境内容も変革しつつある。当会では、こうした事業主の店舗照明に関する意見、要望等を知り、よりよい照明と店舗の一層の活性化に役立つ活動に必要な資料集取を目的として、アンケート調査を実施した。アンケートは中・小規模店舗を対象として、全国9電力会社の方に調査を依頼、調査員が店舗を訪問し、面談の上、アンケート用紙に記入したものである。

調査は、次のような事項について行なった。

- (1) 店舗の概要
- (2) 店舗の改装（または新築）状況
- (3) 照明の電気設備
- (4) 現在の照明概要
- (5) 照明器具の選定者
- (6) 店舗と照明（照明の電要性など）

以下に調査結果の一部を示す。

調査は昨年度（昭和62年度）に実施したもので、調査項目は、昭和52年度に実施した実態調査（照学誌、Vol.62, No.9参照）と比較できるように同上の調査と共通の項目も含めた。

1. 調査店舗の概要

調査件数は総数 972 件となった。業種別の回収件数は図1に示すとおり、食堂・レストラン等の飲食店と飲食料点小売業が多く、この両者で60%強となっている。また売場面積については、図2に示すとおり、21~50m²と51~100m²が多くこの両者で63.8%となっている。

図1 業種別の割合

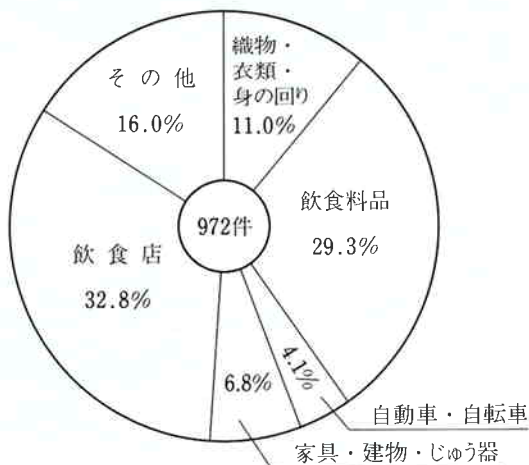
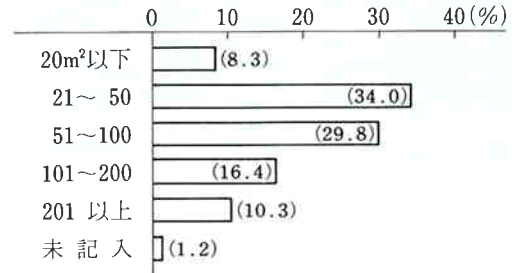


図2 売場延面積



2. 現在の照明概要

(1) 照明器具

照明器具（全般照明用）の種類別店舗数は図3に示すとおりで、埋込ダウンライト、トラフ形、逆富士形が多く、次いでペンダント、さらには下面カバー付、間接照明も多く見られ、H形直付、下面開放形は少ない。

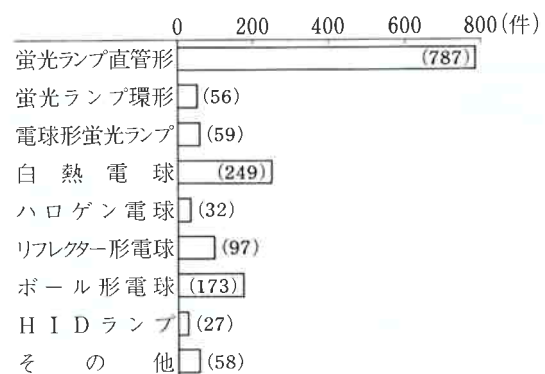
図3 全般照明器具の種類別店舗数分布

（重複回答あり）



図4 全般照明用光源の種類別店舗分布

（重複回答あり）

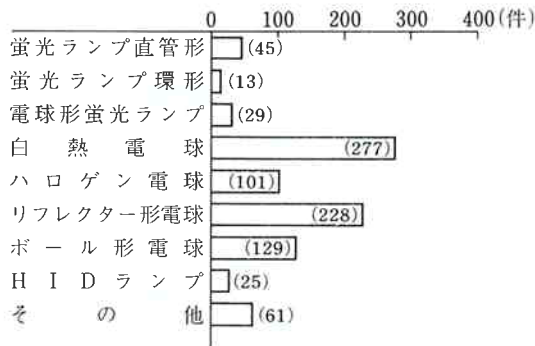


(2) 光源

照明用光源の種類別店舗数は図4、5に示すとおりである。全般照明用光源としては、直管形の蛍光灯ランプが最も多く、972件の調査店舗数に対して約80%の店舗が使用している。

重点照明用（スポットライトなど）光源としては白熱電球、リフレクター形電球が多いが、ハロゲン電球も972店舗のうち約10%の店舗で使用されている。

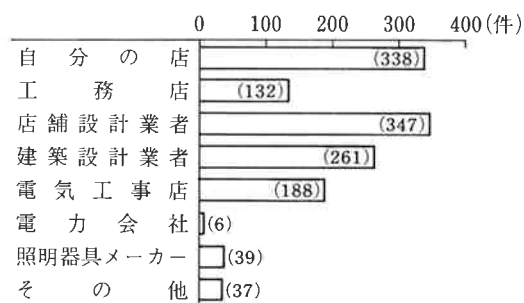
図5 重点照明用光源の種類別店舗分布
(重複回答あり)



3. 照明器具の選定者

照明器具の選定に対しては、図6に示すとおり、施主が関与している件数は全体の約1/3で、店舗設計業者、建築設計業者、電気工事店、工務店のあいだで選定されている。

図6 照明器具の選定者別店舗分布
(重複回答あり)



4. 店舗と照明

店舗と照明に関して経営者、店主などが感じていることとして、店舗デザインでの重要項目、照明が売上に貢献するかどうか、現在の照明が業種、商品にマッチしているか否か、電気代の負担感覚、今後の照明改善相談希望先、閉店後の照明活用の実施状況、現在の照明で困っている事項などを調査した。

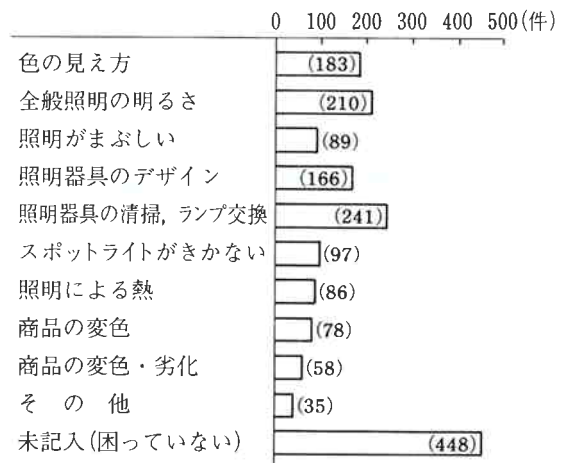
これらのなかで表1は店舗デザインの重要度順位平均値をまとめたものである。これによると店舗デザインのなかで照明が重要と考えられている（第2位）のがわかる。

図7は現在の照明で困っている事項をまとめたものである。972件のうち約54%が何らかの問題を感じているのがわかる。項目としては“照明器具の清掃、ランプ交換”、“全般照明の明るさ（くらいと感じているのが約65%）”、“色の見え方”、“照明器具のデザイン”などが困っている項目として多くあげられている。

表1 店舗デザインの重要度順位平均値

カラーリング(色彩計画)	3.7
照明	3.0
売場レイアウト	2.2
内装素材	4.4
ファサード(店頭デザイン)	3.5
じゅう器備品	5.2
サイン(表示)計画	5.5

図7 現在の照明で困っている項目
(重複回答あり)



本調査結果の内容は、照明学会誌に掲載の予定で現在準備中です。特に業種別の解析についても進行中なので、詳細についてはさらにこれらを御参照いただき、御活用いただきたいと思います。

(吉田 記)

昭和63年度第1回事業連絡会の開催

事業連絡会幹事 長島 徹

昭和63年度第1回事業連絡会が、9月20日、21日の両日にわたり開催された。

当会は、各地区維持員間の連携をはかり、意見、情報交換を行うもので、毎年2回開催している。今回は9電力会社の照明関係にたずさわっている12名が出席した。

各地区の活動状況報告によると、都市景観照明・ライトアップを積極的に推進しているもようで、行政、商工会議所へのPR、セミナー等を開催し、なかにはイベント時のみでなく恒常的なライトアップへと発展したものもある。

主な活動報告は以下のとおりである。

・都市のライトアップ推進（東北電力）

コンサルティングによりライトアップ設備の恒久化が多く確定した。

弘前城「追手門」「亀甲門」（青森県）

岩手銀行旧本店（岩手県）

赤レンガ郷土館（秋田県）他

・なごやライトアップ報告（中部電力）

ライトアップ活動の具体的な施策を立案するための基礎資料として名古屋、東京、大阪の都心部を中心とした通勤、通学者のアフター5の生活、行動、繁華街への要望などについてアンケートを行い、各都市の現状を把握し比較したものである。

「農作物と照明」刊行のご案内

光は人間にとって不可欠のもので、照明の普及が生活時間を夜間に延長し、生活水準の向上に役立っています。また照明は、植物や家畜の生育や繁殖に関係の深い特性を活用されています。しかし、光を無造作に与えると時として稲の出穂遅延などの効果を生ずることもあります。

（社）照明学会でこれ等の調査・研究を行ない、「農作物に対する夜間照明の影響研究調査委員会報告書」を刊行いたしました。当普及会ではこれを受け、より分かり易い資料とすべく、要約抜粋を行ない、概要をまとめたものです。特に屋外照明施設の設計、計画の事前に周辺環境を検討される場合の参考に供するものです。

（綱島 記）

照明普及会昭和63年度事業報告

（昭和63年8月～10月）

9月7日 あたらしい照明専門部会

・あたらしい照明107号「文化施設照明

名古屋のライトアップ推進については街が明るくなり、活気とセンスアップにつながるとして、賛同者は80.1%にのぼっている。

- ・街路照明の適正化に関する調査分析（関西電力）
昭和60年度に夜間の自動車事故および路上犯罪の防止に関する照明の効果を、昭和61年度には住宅地域における防犯照明に関して規格、基準などや実態の調査、所要照明レベルの実験を行い、現在の防犯照明の問題点と改善方法を明らかにしたが、今回はこれらの成果を基礎にして、よりよい防犯照明の実現を図るための方策を具体化することを目的として、効果的な防犯照明の設計要件の検討ならびに防犯照明の普及・推進用資料の原案作成、さらに防犯照明の実態調査を行った。
- なお、同連絡会のスケジュールを紹介すると次のとおりである。

第1日目：会議（国立教育会館）

- （議題）(1) 昭和63年度事業経過報告ならびに事業計画審議
- (2) 昭和63年度各地区照明普及事業報告および事業計画
- (3) 学会関係連絡事項

第2日目：見学会

後楽園東京ドーム球場 照明施設見学

特集」号について投稿原稿の編集および執筆担当者の選定を行なった。

9月13日 照明教室専門部会

・照明教室67「光源とその応用」（仮題）の選定を行なった。

9月20、21日 事業連絡会（第1回）

・維持員間の連携強化のための各地区担当者会議を行なった。

①昭和63年度事業報告

②各地区事業報告

③理事会からの連絡事項

なお、21日は、東京ドーム球場の照明施設見学を行なった。

9月29日 創立30周年記念誌専門部会

・原稿の収集状況および査読、今後の発行方針を決定した。

10月6日 普及会だより専門部会

・「照明普及会だより」第2号の編集および第3号の企画を行なった。

（事務局 記）